

多文化共生事業事例集

年度

R3

団体名

香川県
(公財)香川県国際交流協会

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

G

事業費総額 2,779千円

意識啓発・地域づくり

事業名

技能実習生との多文化共生まちづくり事業

概要

多文化共生のまちづくりサポーターの養成講座を実施し、外国人住民との交流イベント等を開催した。

事業のポイント

◇技能実習生が地域社会との接点が少ないという課題を解消するため、地域住民に多文化共生のまちづくりの取り組みの重要性を認識してもらい、技能実習生をはじめとする外国人を地域住民として受け入れ、ともに社会づくりを行うという意識を醸成する。

◇多文化共生マネージャーや技能実習生の監理団体、モデル地域の町、地元の大学など、多数の機関と連携しながら対面交流を主として事業を実施した。

事業の背景・目的

◇香川県在住の外国人は年々増加しているが、中でも技能実習生は全体の約半数を占め、その数は過去5年間で2倍以上になっている。今や技能実習生は地域社会にとって欠かせない存在だが、技能実習生と地域社会との接点は少なく、「顔の見えない」存在となっている場合が多い。技能実習生の多くが、地域社会の一員として認識されることなく、地域のことを十分に知る機会のないまま帰国している状況である。

事業の詳細

モデル地域(綾川町)において、3か年計画の1年目として、以下の流れで、技能実習生と地域住民との交流の仕組み作りを中心とする地域社会の意識啓発活動を行った。

①令和3年4月～7月

- ・町民アンケート調査
- ・技能実習生受入企業・監理団体への情報収集・協力要請
- ・多文化共生のまちづくりサポーター養成講座の計画・準備

②第1回綾川町多文化共生推進連絡会(7/31)

連絡会のメンバーを対象とする多文化共生研修会の開催

③綾川町多文化共生のまちづくり職員研修(8/5)

④多文化共生のまちづくりサポーター養成講座(10月～11月、全5回) 講義やワークショップ、事例紹介、技能実習生との交流等により、多文化共生への理解を深めた。また、技能実習生との交流イベントの企画も行った。

⑤国際交流フットサルイベント in あやがわ(11/20)

⑥綾川町発！外国人・日本人住民のふれあい島旅(11/27)

⑦第1回綾川町多文化共生のまちづくりサポーターミーティング(12/4)

⑧ベトナム講座 in あやがわ～言語や文化を学ぼう&交流を楽しもう～(12/19)

⑨綾川町多文化共生のまちづくり自治会長研修(1/15)

第2回綾川町多文化共生のまちづくりサポーターミーティング

⑩第2回綾川町多文化共生推進連絡会(2/19)

⑪成果報告会(2/25)

対象者：地域住民、技能実習生をはじめとする外国人住民、技能実習生受入企業、研修監理団体、自治会等の地域団体、大学、教育委員会、警察等の外国人住民に関わる団体



まちづくりサポーター養成講座



ふれあい島旅の様子



国際交流フットサルイベントの様子

事業実施における工夫点・事業の成果等

●事業実施における工夫点

- ・モデル地域の綾川町と緊密に連携し、協働して事業に取り組むとともに、同町の自発的な取組みを促した。
- ・香川大学と連携し、同学の学生による綾川町でのまちづくりプロジェクトが発足。メンバーの学生も多文化共生のまちづくりサポーター養成講座を受講し、サポーターとして認定された。
- ・事業開始前の準備段階から町内の受入企業や監理団体を訪問し、技能実習生の現状を把握するとともに、取組みへの協力が得られるよう働きかけを行った。
- ・外国人住民を含め、キーパーソンになりそうな人材に取組みに参加いただけるよう早い段階から働きかけた。
- ・交流イベントで自国の言語や文化等について紹介したり、イベントの企画に参加して外国人の視点からアイディアを出したりなど、技能実習生を含む外国人住民の活躍の機会をできるだけ多く取り入れた。
- ・交流イベント等の報告を中心に情報発信を行ったが、その際、参加した技能実習生の一人ひとりの顔や人となりや伝わるような内容を併せて発信した。
- ・多文化共生マネージャーに企画立案段階から交流事業実施段階まで一貫して事業に関わっていただいた。

●事業の成果

- ・町民アンケートを実施し、969件(調査対象：2000人、回収率48.5%)の回答を得た。
- ・まちづくりサポーター養成講座を24名が受講した。また、サポーターミーティングを2回開催し、交流イベント企画を行うほか、イベントでスタッフとして活動した。
- ・技能実習生と地域住民の交流イベントを3回実施し、延べ88名が参加した。
- ・自治会長や行政職員を対象とする多文化共生研修会研修を2回実施し、計75名が参加した。
- ・自治会、警察署、校長会、技能実習生受入企業等、町内の様々な関係機関と日本人住民・外国人住民から成る綾川町多文化共生推進連絡会が立ち上がった。
- ・香川大学の学生によるプロジェクトが立ち上がったことで、若者たちがまちづくりに継続的に取り組む体制ができた。



綾川町多文化共生推進連絡会の様子

今後の課題・(コロナ禍の状況を踏まえた) 将来に向けての展望等

新型コロナウイルス感染症の影響により、まちづくりサポーター養成講座の実施が遅れ、活動期間に限られることになり、サポーターが企画した交流イベントも翌年度に延期された。また、技能実習生の自治会行事や公民館活動等への参加を促進するため、サポーターと連携して受入企業や監理団体に働きかけを行う予定であったが、行事自体が中止となり、実施できなかった。

しかし、まちづくりサポーターには意欲的な人材が多

いことから、今後も地域社会の中で継続的に活躍いただけるような環境を整えていきたい。そのためには、どういったかたちで活動を定着させ、どのようにサポーターの輪を広げていくのかなど、町と相談しながら地域に合った方向性を見極めていくことが重要であると考えます。

そのほか、外国人住民が取組みに参加しやすい環境づくりや企業との連携強化にも取り組んでいきたい。

事業担当者のふりかえり

コロナ禍で交流の機会は限られてしまったが、開催したイベントは、日本人住民、外国人住民双方に大変喜んでいただけ、連絡先を交換する姿も見られた。また、参加した技能実習生の様子を見て、受入企業や監理団体の関係者にも交流の機会の大切さを感じていただけた。まちづくりサポーターの方にとっても、技能実習生と実際にふれ合うことが活動に取り組む何よりのモチベーションとなっているように見受けられる。こうしたことから、取組みを続けることで、少しずつでも交流の輪が広がり、一人ひとりの意識が変化していくことが実感できた。

1年間の取組みをふりかえり、一番大切なのは実際に会って話をすることだと感じる。それは、技能実習生との交流だけでなく、まちづくりに関わる人たち全てとの関わりに当てはまる。異なる立場や考え方の人たちが協働するのは難しいことも多いが、一人ひとりと出会って話をすることで、まちづくりの大切さや地域の未来に対する思い・ビジョンを共有することができ、同じ方向を向いて共に歩いていると感じられることが増えてきた。今後もいろんな方とつながりながら、地域に根差した交流の場づくり、それが継続するための仕組みづくりに取り組んでいきたい。